

# 原発ウォッチャー報告

2012年5月分

---

2012. 6. 7.

公益社団法人 福島原発行動隊  
Skilled Veterans Corps for Fukushima

## 1.放射線量低減計画

- 1) 放射性廃棄物管理、および敷地境界における放射線量低減に向けた計画
- 2) 放射性物質の海洋汚染拡大防止に向けた計画
- 3) 敷地内の除染計画

## 2. 作業員の環境改善計画

- 1) 作業安全の確保
- 2) 放射線管理
- 3) 健康管理

※ 廃止措置等に向けた中長期ロードマップの内容が膨大であるので、今後は毎月テーマを絞って報告する

# 1. 放射線量低減計画



## 1. 放射性廃棄物管理

- (1) 固体廃棄物管理
- (2) 気体廃棄物管理
- (3) 液体廃棄物管理
- (4) 敷地境界の線量低減
- (5) 環境モニタリング

## 2. 海洋汚染拡大防止

- (1) 漏えい時汚染低減
- (2) 港湾内放射性物質濃度の低減

## 3. 敷地内除染

- (1) 常時執務場所
- (2) 常時作業場所
- (3) 作業場所およびアクセス
- (4) 除染技術適用性試験

## (1) 固体廃棄物管理

### \* 廃棄物を放射線量の高低に応じて保管する

- 高放射線量の廃棄物は固体廃棄物貯蔵庫を復旧して保管
- がれき等は放射線量に応じて、収納容器、蛇腹ハウス、テント、屋外ビニールシートにそれぞれ保管
- 集積場所にビニールシートをかぶせる
- 底部を遮水シートで覆った一時保管場所を新設中
- がれき等のサンプリング法、減容試験研究を実施中

## (2) 気体廃棄物管理

### \* 格納容器ガス管理システムの設置、運用

- 1号炉は建屋と格納容器から、2・3・4号炉は格納容器からフィルタを介して排気中。
- 各炉の排気中の放射線量を常時モニタする



### (3) 液体廃棄物管理

- ＊ 保管中の水処理二次廃棄物は遮蔽等により放射線量を低減
- ＊ 保管容器等の長期保管に関する研究開発を実施中

### (4) 敷地境界の線量低減

- ＊ 上記に加え、敷地周辺8カ所のモニタリングポスト周辺を除染し、敷地外に漏れる放射線量測定精度を向上
- ＊ H24年度中に1mSv/年を実現する目標

### (5) 環境モニタリングの継続実施



## (1) 汚染水漏えい時における海洋汚染拡大リスクの低減

### \* 取水路前面エリアの海底土を固化土により被覆する

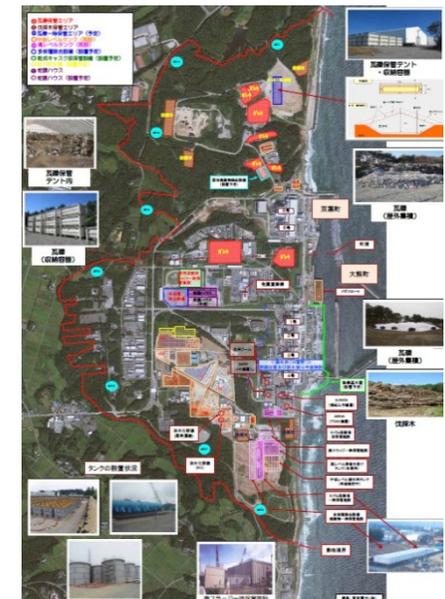
- 1～4号機前面は2そう被覆完了
- 5・6号機前面は6月末完了予定
- 遮水壁を2014年度中に設置する計画

## (2) 港湾内海水中の放射性物質濃度の低減

- \* 港湾内にゼオライト吊り下げは効果少
- \* 海底土被覆完了後に浄化装置の運転を再開する予定



- 作業員の被ばく量の低減、作業性の向上、汚染拡大防止を目的
  - 多くの作業員滞在するエリアを優先
  - 滞在時間や空間線量率に応じた除染を実施
- 1) 常時立ち入る場所(免震重要棟)およびアクセスエリア(免震重要棟の滞在線量と正門～免震重要棟の移動線量合計が3mSv/3ヵ月未満を目標)
  - 2) 常時立ち入る作業場所(正門)(正門警備員の年間滞在時間を考慮し20mSv/年未満)
  - 3) 作業時立ち入る作業場所およびアクセスエリア(合理的な範囲で段階的に引き下げる)
  - 4) 敷地内の除染適用技術の適用性試験を4月中頃開始。この結果に基づき、6月後半より本格除染を実施予定



## 1) 作業安全の確保

### (1) 重要免震棟の非管理区域化

- 屋上除染、床・壁面に鉛設置等の線量低減策を継続実施中

### (2) 熱中症予防対策の検討、実施

- WBGT値(暑さ指数)の電光表示パネル設置
- WBGT値により作業時間、休憩の頻度・時間、作業強度を変更する
- 7/8月の14～17時の炎天下作業を原則禁止
- 適度な休憩の付与と休憩時の水分・塩分摂取を徹底
- 身体を冷却する機能を有する作業着(クールベスト等)を着用
- チェックシートを用いた作業員の体調管理

### (3) 防護装備の軽減化

### (4) 重傷災害撲滅、全災害発生件数低減対策の実施

### 2) 放射線管理

- (1) 線量限度管理の確実な実施
- (2) 免震重要棟の非管理区域化
- (3) 敷地内除染

### 3) 健康管理

- (1) 長期健康管理の実施
- (2) 継続的な医療職の確保

